

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鳥取大学
設置者名	国立大学法人 鳥取大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/disclosure/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/disclosure/finance/
財産目録	
事業報告書	https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/disclosure/finance/
監事による監査報告(書)	https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/disclosure/evaluation/audit/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学 Web サイトで公表 https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/disclosure/evaluation/self/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学 Web サイトで公表 https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/disclosure/evaluation/institution/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

学部等名 地域学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.rs.tottori-u.ac.jp/faculty/idea/index.html） （概要） 1. 地域をつくりあげている諸要素（社会・文化・自然）に関する幅広い知識を修得し、それらを相互に関連づけて理解する高度な思考力を養成します。 2. 地域にある様々な公共的課題を探究するために必要な知的好奇心を養います。 3. 批判的判断力、創造的表現力、コミュニケーション力を発揮して、地域社会の課題解決にたずさわる実践力を磨きます。 4. 最終的に、高い倫理観と責任感をもって地域社会の再生・持続的発展に貢献できる人材の養成を目指します。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.rs.tottori-u.ac.jp/faculty/idea/index.html） （概要） 地域学部は、学生が地域学部の教育課程を履修し、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力を身につけたときに学士（地域学）の学位を授与します。 1. 文化、社会、自然に関する幅広い知識や理解、これを土台とした、地域の公共的課題の探究に関わる知識・理解、知識獲得のための方法と技能を有している。 2. 論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力および地域の諸課題を探究し解決しようとする態度を有している。 3. 地域の諸課題に対して幅広い関心・興味・意欲を持ち、主体的・自律的・継続的に学び続けることができる生涯学習力を有している。 4. 健全な倫理観を有し、豊かなコミュニケーションをもとに他者と協働して地域社会を創造する社会的実践力を身につけ、地域や社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.rs.tottori-u.ac.jp/faculty/idea/index.html） （概要） 地域学部は、学位授与の方針で示す能力を学生が身につけることができるよう、次に掲げる方針のもと、学科及び各コースにおいて体系的な教育課程を編成し、実施します。 1. 教育課程・教育内容 ・大学での学習の動機を明確にして、主体的に学習にとりくめるよう、大学入門科目および学部・学科の専門に関わる入門科目を設けるなど初年次教育を充実します。 ・教養豊かな地域学士を養成するため全学共通科目と学部の専門科目をバランスよく提供します。 ・地域に生起する公共的課題を解決できる力を形成するため、これを理論的に追究する科目と実践的に探究する科目、そして両者を統合する科目を設けて、知と実践を融合する教育課程を編成します。 ・自律的な生涯学習力を形成するために、各授業で、学び続けることの意義、地域の公共的課題に関する持続的な興味・関心、学習スキルの形成を目指します。 2. 教育方法 ・健全な倫理観を有し、他者と協働して、地域の諸問題を実践的に解決できる力を養うために、対話型・共同参加型の授業の展開に努めるとともに、国内外でのフィールドワークなど活動的学びを積極的に取り入れます。 3. 学修成果の評価 ・学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により学修成果の到達度を厳格に評価します。 ・学修成果の可視化に努め、教育課程の改善に活かします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.rs.tottori-u.ac.jp/faculty/idea/index.html）
（概要） 地域学部では、地域とそこに生きる人々との関わりに関心を持ち、これを科学的に探究し、地域の持続的発展に貢献したいという意欲をもった、次のような人を求めます。 1. 地域学を学ぶにあたり、高等学校等において身につける、文化、社会、自然に関する基礎的な知識・技能を有する人 2. 地域学を学ぶにあたり、基礎的な思考力、判断力、表現力を修得し、その向上を志す人 3. 自己の能力を継続的に向上させ、地域の諸課題を探究しようと志す人 4. 健全な倫理観を身につけ、主体的に他者と協働して地域社会の持続的な発展への貢献を志す人 地域学部では、これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.med.tottori-u.ac.jp/introduction/idea.html）
（概要） 鳥取大学医学部は山陰地方の歴史と伝統ある医学部として、21世紀にふさわしい医学、生命科学、保健学を修得し、これを実践できる人材を育成するための先進的な教育を行う。そして、限らない人間愛を涵養しながら、地域社会の課題を解決し、地域の発展に貢献するとともに、国際的に活躍できる個性輝く創造性豊かな人材の養成を目指す。 ・医学科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成する。 ・生命科学科では、生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を養成する。 ・保健学科では、看護学専攻は看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を、検査技術科学専攻は生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.med.tottori-u.ac.jp/introduction/policy/）
（概要） （医学科） 鳥取大学医学部医学科では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部医学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士（医学）の学位を授与します。 1. 医師に求められる基本的な知識、技能、態度を修得し、それを生涯にわたって維持向上させる姿勢を有している。 2. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会に対する自身の役割を認識し、患者中心の立場に立った医療を実践する能力を身につけている。 3. 論理的思考力、高度な判断力、コミュニケーション能力を身につけ、他者と協働して医療・研究を行う能力を有している。 4. 常に知的探究心と創造性を持ち、最新の医学的知識を身につけ、国際的な視点で物事を考える能力を有している。

5. 地域や地域で暮らす人を愛する心を持ち、コミュニティと連携して地域医療の向上に貢献する能力を有している。

(生命科学科)

鳥取大学医学部生命科学科では、その教育目的を踏まえ、学生が本学科の教育課程を修め、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力や特性を身につけたときに学士（生命科学）の学位を授与します。

1. 自然科学をはじめ一般的な教養に関する幅広い知識と、生命科学および基礎医学に関する深い知識の習得と理解、これら知識の獲得のための方法と技能を身につけている。
2. 生命科学研究の遂行に必要な基本技術とその原理の理解、解決すべき問題を自ら設定できる問題探索力、問題を適切な方法により解決に導く問題解決力を身につけている。
3. 国際的な広い視野を備えた柔軟かつ論理的な思考力、独創的な発想力を有している。
4. 生命科学における真理の探求や新しい技術の開発の重要性に対する深い理解、従来の常識や先入観に左右されない態度、他者と共同して研究を進めることができる協調性を有している。
5. 生命科学を学んだものとしての健全な倫理観と責任感を備えている。

(保健学科看護学専攻)

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻では、その教育目標を踏まえ、学生が医学部保健学科看護学専攻の教育課程を修め所定の単位を修得して卒業要件を満たし、鳥取大学の学位授与の方針に加え、以下の能力や特性を身につけたときに学士（看護学）の学位を授与します。

1. 看護職者の役割と責務を理解し、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、倫理的に行動することができる。
2. 看護の基礎となる人間と健康生活を理解し、人間、健康、環境、看護に関する専門的知識と技術の修得、さらに、あらゆる対象の健康生活のために科学的根拠に基づいて看護を実践する能力を有している。
3. 対象者の利益のために保健・医療・福祉をはじめ種々の関係者と連携・協働し、調整する能力を有している。
4. 看護学の発展のために、看護実践の中から課題を自律的に探求し、論理的・創造的に解決し続ける能力を有している。

(保健学科検査技術科学専攻)

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、鳥取大学の卒業認定・学位授与の方針に加え、次に掲げるように能力や特性を身につけたときに学士(保健学)の学位を授与します。

1. 幅広い視野から人間を理解し、倫理的に行動する態度と姿勢を有している。
2. 臨床検査学の高い専門的知識と技術を身につけている。
3. 医療人としてのコミュニケーション能力、思考力、判断力、協調性を有している。
4. 地域のみならず国際的な医学・医療の発展に貢献できる科学的探究能力を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.med.tottori-u.ac.jp/introduction/policy/>)

(概要)

(医学科)

鳥取大学医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した教育プログラムを導入し、到達目標を明確にし、卒業時までには医師あるいは研究医になるために必要な知識、技能、態度を身につけられるようなカリキュラムを組むことを基本的な方針としています。
2. 人間力を高めて、幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。
3. 学問に対する興味を深め、学問・研究が社会に貢献している実状を理解させる教育を実践します。
4. 創造力豊かな医療人を育成するためイノベーション教育を実施します。
5. 生命倫理、利益相反、危機管理、環境問題等の社会的に関心の高い学問領域を重視した教育を実施します。
6. 人体および人体標本に対する礼意や倫理に関する教育、守秘義務に関する教育を実施します。
7. 情報社会において安全かつ有効にネットワークを活用できるようにするため情報リテラシー教育を実施します。
8. コミュニケーションの大切さを実感させる教育を実施します。手話をコミュニケーション方法として取り入れるために手話教育に力を入れます。
9. 研究体験、先端医学講義、及び英語論文抄読などにより、リサーチマインドを涵養します。
10. 診療英会話などの実践的英語能力の向上を目指します。海外の学術交流協定校との間で臨床実習体験などの交流を行います。
11. 全人的医療人育成のため、低学年から早期医療体験を通じて、医療従事者としての動機付けを行い、臨床講義終了後に地域医療体験で地域に密着した医療を学ぶとともに地域の保健、福祉、介護の実践と多職種連携の重要性を理解する教育を実施します。
12. グローバルスタンダードを視野に入れた診療参加型臨床実習を実施します。

(2) 教育方法

1. 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を知識、技能、態度について試験、レポート、評価表等を用いて厳格に評価するとともに、学生の学修成果達成度を可視化することに努めます。
2. 学修成果をモニターして教育課程の効果を検証し、教育課程の編成に反映します。

(生命科学科)

鳥取大学医学部生命科学科は、卒業認定・学位授与の方針で示す能力や特性を学生が主体的に身につけることができるよう、次に掲げる方針のもとに体系的な教育課程を編成し実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 生命科学の専門知識とともに幅広い能力を持った職業人を養成するため、教養教育を受講する機会を広く提供し、人間力の構成要素がバランスよく身につくカリキュラムを展開します。

2. 全学共通科目では、自然科学をはじめ一般的な教養を学ぶとともに、医学・生命科学を支える基礎的な知識および技術の習得を図ります。
3. 専門科目では、幅広い医学知識、専門性の高い生命科学知識、生命科学研究に必要な基礎技術の習得および生命倫理の理解を図ります。
4. 論理的思考力、独創的な発想力、的確な表現力およびコミュニケーション能力を育成します。同時に、真理の探求や新しい技術の重要性に対する理解を促します。

(2) 教育方法

目標とする学修成果を達成できるように、1～3年次では、教育課程・教育内容に挙げた内容について、講義および実習を通して学修を推進します。最終年次における「生命科学特別研究」では、所属する研究室においてきめ細やかな指導を行います。これらについて、一対一の対話型および参加型教育を行い能動的な学習を推進し、主体的な問題探索力、問題解決力の育成と修得を図ります。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を、各年次における試験、レポート等を用い、厳格に評価します。および実習での能動的な探求の姿勢については、実習参加の積極性や協調性などについて厳格に評価します。さらに、学修成果の達成度を可視化することに努めます。
2. 最終年次における「生命科学特別研究」は、学部の定める成績評価基準に基づき、日常の研究に取り組む姿勢、研究態度、そして卒業論文により、学修成果の到達度を評価します。
3. 学修成果をモニターして教育課程の効果を検証し、教育課程の編成に反映します。

(保健学科看護学専攻)

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻は、学位授与の方針を実現できるように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 鳥取大学のグランドデザインの柱である現代的教養と人間力を身につけるために文化・社会・自然に関する幅広い科目を編成します。
2. 全人的医療人の基盤として、こころ・身体・社会の構造と機能について学習し、さらに、看護学の視点から生活者の健康について学習できるカリキュラムを展開します。
3. あらゆる対象の健康生活を科学的根拠に基づき支援するために、看護の対象、看護実践の場、健康にかかわる課題、看護実践の方法について学習を充実します。
4. 看護の本質を追究し続ける姿勢を身につけるために、看護の論理的追究および実践的追究の方法に関する学習を充実します。

(2) 教育方法

1. 自ら学ぶ力を高め、学びを統合するために、対話型・参加型・実践型教育の展開に努めます。
2. 看護の対象となる人々が生活する地域・在宅、医療・福祉・教育施設等の多様な場において看護実践教育を行います。
- 3.

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、学修成果の達成度を、知識、技能、態度について、試験、レポート、評価表等により厳格に評価します。
2. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

(保健学科検査技術科学専攻)

鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針を実現できる

ように、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

(1) 教育課程・教育内容

1. 幅広い知識と確かな実践力をもった人材を育成するために、バランスのとれた教養教育と専門教育を行います。また、自律的な生涯学習力を養成します。
2. 臨床検査技師に必要な科目を中心にして、専門科目を体系的に学べるよう教育課程を編成します。臨床検査技術の習得につながる実習科目を充実します。
3. 医療人として必要な医学の専門科目に加え、コミュニケーション能力を育成する科目を設置し、他者との違いを理解し、他者を思いやる心と倫理観を涵養します。
4. 大学附属病院を含む地域の医療施設で実習を行い、臨床現場での体験学習を充実させます。
5. 最先端のバイオサイエンスや医学・医療の実際を学べる教育課程を編成します。また、課題研究など国際的に通用する問題解決能力・創造的表現力を育成する科目を設置します。

(2) 教育方法

1. 目標とする学修成果を達成できるように、対話型、参加型教育を展開して能動的な学習を推進します。

(3) 学修成果の評価

1. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により学修成果の達成度を厳格に評価します。
2. 学修成果の可視化に努め、これを検証し、教育課程の編成に反映します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.med.tottori-u.ac.jp/introduction/policy/>）

(概要)

(医学科)

医学部医学科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域特性に合わせた医療の実践や最先端の医学を創造できる医師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

1. 医学に関心があり、目標に向かって継続的に努力できる人
2. 医学を学ぶために必要な基礎学力・教養をもつ人
3. 問題を解決するための柔軟な思考力及び豊かな表現力をもつ人
4. 思いやり、責任感及び協調性のある健全な考え方をもつ人
5. 医学・医療と保健・福祉の発展に貢献したいと考えている人
6. 地域・国際医療に関心を持ち、貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、多角的視野など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜及び学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

(生命科学科)

医学部生命科学科では、生命倫理を尊重するとともに、基礎医学と最先端の生命科学を修得し、医学とその多様な関連領域の研究者や両者の橋渡し役を担う専門的職業人を目指す、次のような人を広く受け入れます。

1. 学修に必要な高等学校等までの理科（生物、物理、化学）の知識と基本的な語学力と国語力を備えた人
2. 現代の医学・生命科学及びその関連分野の動向・進展に関心があり、それらの知識・技術を学ぶとともに向上・発展させる研究活動に興味を持つことができる人
3. 真理探究の意欲を有し、創造的目標の達成にチャレンジでき、そして勉学・自己研鑽に労力をおしまない人

4. 協調性を備え、生命科学を通して国際的な広い視野と仕事への使命感を持って人類に役立つ喜びを感じる人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜及び学校推薦型選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

(保健学科看護学専攻)

医学部保健学科看護学専攻では、看護学の理論と技術を修得し、人間の尊厳を守り、地域特性に合わせた看護を実践できる看護職を志す、次のような人を広く受け入れます。

1. 健康に関わる様々な問題について、深く広い関心のある人
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3. 相手の言葉に耳を傾け、相手の立場を思いやることができ、自らも的確に表現する力のある人
4. 問題解決のために柔軟な発想と多面的・論理的な思考力を持ち、自分の考えを表現できる人
5. 自ら課題を見出し主体的、創造的に探究して自己の成長を目指す人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

(保健学科検査技術科学専攻)

医学部保健学科検査技術科学専攻では、生命倫理を尊重し、最先端のバイオサイエンスと生体・機能検査の技術をそなえた臨床検査技師を養成するために、次のような人を広く受け入れます。

1. 科学的な思考力、判断力、表現力があり、主体的に学ぶ意欲のある人
2. 医学・医療や生命医科学を学ぶための基礎的な知識・技能のある人
3. 倫理観を備え、周囲の人と協調して行動できる人
4. 地域の医療・保健に加えて、国際的にも貢献したいと考えている人

これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性、創造性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

学部等名 工学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://eng.tottori-u.ac.jp/education/faculty-idea>)

(概要)

鳥取大学工学部は、人類の福祉と社会の発展に資するため、主として工学の分野における学術研究と教育を行うとともに、社会が必要とする技術を開発し、それを駆使しうる人材を養成することを目的とする。

●工学部の教育目標

以下の能力・素養を身につけた人材を養成する。

1. 人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚する知的・道徳的能力
2. 技術者としての基礎学力と技術をしっかり身につけ、問題解決のために応用できる能力

3. 自分で学習する能力 4. 論理的な記述、発表、討論などのコミュニケーション能力 5. 個別知識の獲得に留まらず、総合的・系統的に思考する分析能力と総合能力 6. 社会のニーズを汲み取った問題発見・解決能力 7. 多様な価値観や地域特性、文化的背景の存在を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方が出来る能力
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://eng.tottori-u.ac.jp/education/faculty-policy）
（概要） 鳥取大学工学部では、鳥取大学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、各学科の教育課程を修め、所定の単位を修得したと認められ、卒業要件を満たし、次に掲げる能力を身につけた学生に対して、学士(工学)を授与します。 1. 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚する知的・道徳的能力 2. 基礎知識や専門知識に基づいて総合的・系統的・計量的に思考し、新技術開発や問題解決、情報活用を行う能力 3. 自律的・主体的・継続的に学習する能力 4. 論理的な記述、発表、討議などのコミュニケーション能力および他者と協働して実践する能力 5. 多様な価値観や地域特性、文化的背景の存在を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方ができる能力 （機械物理系学科） 機械物理系学科では、本学および工学部の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次に掲げる能力・素養を身につけたときに学位を授与します。 1. 機械物理系の基礎知識・専門知識を修得し、工学上の問題解決のためにそれらを活用しうる能力 2. 理論、実験、数値シミュレーションによる取組みを自ら計画し、結果を解析するとともに工学的に考察し、技術者として問題を解決する能力 3. 日本語によって自分の考えを正しく伝え、相手と意思の疎通を図る能力、さらに、英語でのコミュニケーションを行うための基礎能力 4. 技術者として高い倫理観を持ち、自分の仕事の社会的な意義と影響を理解する能力 5. 広い視野と社会的な良識を持ち、多様な価値観が共存しうることを踏まえ、人間・社会・環境に配慮した視点を有する能力 （電気情報系学科） 電気情報系学科では、鳥取大学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、本学科が定める教育課程を修め、所定の単位を修得したと認められ、卒業要件を満たし、次に掲げる能力を身につけた学生に対して学士(工学)を授与します。 1. 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚する知的・道徳的能力 2. 電気情報系分野の基礎知識や専門知識に基づいて総合的・系統的に思考し、新技術開発や問題解決を行う能力 3. 自律的・主体的・継続的に学習する能力 4. 論理的な記述、発表、討議などのコミュニケーション能力および他者と協働して実践する能力 5. 多様な価値観や地域特性、文化的背景の存在を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方ができる能力 （化学バイオ系学科）

化学バイオ系学科では、鳥取大学工学部の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、所定の単位を修得して卒業要件を満たし、次の能力・素養を身につけた学生に学位を授与します。

1. 化学及び生物工学の基礎学力を身につけており、それらを統合して各専門分野の最新情報を理解し活用することができる。
2. 実験技術とデータ解析技術を身につけ、実験から得た事実を論理的に考察し、様々な課題を自ら解決できる。
3. 常に学問的興味・関心を失うことなく、修得した知識や技術を社会へ還元する意欲を有している。
4. 専門知識及び研究成果を、適切な言葉で筋道立てて表現できる。
5. 化学や生物工学のみならず、学際分野についても高い関心と疑問を持ち、自ら課題を探究し、解決する意欲を有している。
6. 地球の環境と人類の幸福・福祉を考え、社会に対する責任や倫理観を自覚することができる。

(社会システム土木系学科)

鳥取大学工学部社会システム土木系学科では、鳥取大学ならびに工学部の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、次に掲げる能力・素養を身につけた学生に学位を授与します。

1. 人類の幸福や社会の持続可能性の視点をもった、技術者としての倫理観や判断能力
2. 基礎知識や専門知識に基づいて総合的・系統的に思考し、社会システム土木系分野に関する諸課題を解決できる能力
3. 課題や問題点を見出し、他者と協力してプロジェクトを計画・遂行する能力
4. 自らの考えを論理的に表現し、発表・討議できるコミュニケーション能力と、それにより他者と協働して実践する能力
5. 自主的・継続的に知識や技術を蓄積することができる能力
6. 多様な価値観や地域特性、文化的背景を踏まえ、柔軟で視野の広いものの考え方ができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://eng.tottori-u.ac.jp/education/faculty-policy>）

(概要)

鳥取大学工学部では、本学部の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 全学共通教育と合わせて専門分野を中心とした特色ある教育課程を学科毎に編成します。
2. 課題解決能力や社会的実践力を形成するため、専門の技術・知識の理論的探求と実践的探求を促し、総合的な能力を向上させる場として卒業研究を行います。
3. 工学技術に関する倫理教育の機会、最新の技術動向や専門知識に触れる機会を提供します。
4. 他者と協働して能動的に実践する能力を形成するために、実験、演習等の対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

(機械物理系学科)

機械物理系学科では、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 初年次では数学、物理学、情報技術など学修の基礎となる科目を重点的に学びます。加えて、人文・社会、環境、生命に関する幅広い教養科目、外国語科目を学ぶとともに、

大学入門ゼミ、キャリア教育科目を通じて将来を見据えた学修を各自に促します。

2. 学生の興味・関心に応じた複数のプログラムを用意し、各プログラムの特色ある必修科目の他、選択科目を主体的に履修することで専門性を高めていきます。専門の知識・技術を応用して、卒業研究と卒業論文の執筆・発表を行い、問題解決を図る総合的な能力を養成します。
3. 最先端の機械物理系分野の科学技術動向に触れる機会を準備し、技術者としての高い倫理観を養成する科目を提供します。
4. 実験、製図、演習、プロジェクト科目を通じて能動的な考察能力・課題解決能力を磨き、対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. 授業アンケートなどを通して学修成果を分析しながら教授法を検証し、教育方法の改善に努めます。

(電気情報系学科)

電気情報系学科では、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

1. 全学共通科目と合わせて電気情報系分野を中心とした教育課程を編成します。
2. 電気情報系分野の専門的な技術・知識を応用し、総合的な能力を向上させる場として卒業研究を行います。
3. 工学技術に関する倫理教育の機会、最新の技術動向や専門知識に触れる機会を提供します。
4. 他者と協働して能動的に実践する能力を形成するために、実験、演習等の対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

(化学バイオ系学科)

化学バイオ系学科では、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 1年次では全学共通教育と合わせて、有機化学・物理化学・無機化学・分析化学・生化学など各専門分野の基礎となる科目を修得し、2年次から「合成化学」、「材料化学」、「グリーンケミストリー」、「バイオサイエンス」、「バイオテクノロジー」、「医工学」の各プログラムに所属してそれぞれに特色のある教育を行います
2. 学生が学修した内容を統合し、それをもって他者にはたらきかけることができるようになるために、「応用化学ゼミナール」、「生物工学プレゼンテーション演習」、「卒業研究」を配置します
3. 理系企業人に求められる、科学的思考力・伝える力、倫理観、法令認識、リスク認識、自分と自分の仕事に対する将来ビジョンと構想力、および他分野学問への関心を共に考えるために、「工学倫理」を必修とし、最新の技術動向や専門知識に触れるために、「化学・バイオ工学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を配置します
4. 実験を行う上での基礎的な知識、技術の修得、および他者と協働して能動的に実践する能力の形成を目指し、「合成化学」、「材料化学」、「グリーンケミストリー」プログラムでは「応用化学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を、「バイオサイエンス」、「バイオテクノロジー」、「医工学」プログラムでは「生物工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」をそれぞれ必修とします
5. 学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します
6. 学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します

(社会システム土木系学科)

社会システム土木系学科では本学科の「卒業認定・学位授与の方針」で示す能力・素養を学生が身につけられるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し実施します。

1. 全学共通教育と合わせて社会システム土木系分野の専門教育を中心とした教育課程を編成します。
2. 課題解決能力や社会的実践力を形成するため、社会システム土木系分野の技術・知識の理論的追求と実践的追求を促し、総合的な能力を向上させる場としてプロジェクト科目や卒業研究を実施します。
3. 工学技術に関する倫理教育の機会、最新の技術動向や専門知識に触れる機会を提供します。
4. 他者と協働して能動的に実践する能力を形成するために、実験、演習等の対話型・参加型教育を展開します。
5. 学部ので定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により、学修成果の到達度を厳格に評価します。
6. カリキュラムマップ等により学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://eng.tottori-u.ac.jp/education/faculty-policy>）

（概要）

工学部は、人類の福祉と社会の発展に貢献するため、主として工学の分野における学術研究と教育を行い、社会が必要とする技術を開発し、それを駆使しうる人材を養成することを目的としています。この目的に共感して学ぶことのできる次のような人を求めます。

1. 地球の環境、人類の幸福・福祉に関心を持ち、社会的責任についての考えや倫理観を身につけたいと考えている人
2. 基礎知識や専門知識を学修し、学んだことを新技術開発や問題解決に応用して社会に貢献したいと考えている人
3. 目的を持って自ら学ぶ努力のできる人
4. 他者の意見を聞き、自らの意見を発信するための能力や技能を身につけたいと考えている人
5. 地域社会への貢献や国際的な活躍ができる技術力を身につけ、それを活用する意欲のある人

工学部では、これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性など様々な能力と関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、総合型選抜、学校推薦型選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

（機械物理系学科）

機械物理系学科では、大学及び工学部の入学受入れの方針に基づき、次のような人を求めています。

1. 自然現象や様々な事象に強い興味を持ち、物事を根本的なところから思考できる人
2. 機械、航空宇宙、ロボティクス、物理工学、医工学を学ぶのに必要な基礎学力、特に数学、物理についての学力、及び国語、英語などの語学能力を有し、学習意欲を持っている人
3. 自立・自律心の向上を目指す人
4. 自然環境と人間社会との共存に関心を持ち、柔軟な発想・洞察をもって課題の発見に努力のできる人
5. 課題の解決に向けて、倫理観と熱意を持って持続的に取り組むことのできる人
6. 他者と協働し、倫理観を持って社会の変化に対応した知識、能力、技能を身につけたいと考えている人

(電気情報系学科)

電気情報系学科では、大学及び工学部の入学者受入れの方針に基づき、次のような人を求めています。

1. 数学・理科・英語などの工学に必要な基礎学力を有している人
2. 工学系の学問分野、特に電気電子情報分野（エネルギー、材料、情報、制御、システム、医工学等）に興味を持つ人
3. 工学が社会や自然に及ぼす影響に関心を持つ人
4. 論理的記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を高め、将来、国際社会で役立つ技術者、研究者となる意欲を持つ人
5. 社会の変化に対応して、倫理観を持って自ら学び続ける意欲を持つ人

(化学バイオ系学科)

化学バイオ系学科では、大学及び工学部の入学者受入れの方針に基づき、次のような人を求めています。

1. 自分は何をもって社会に貢献しようとするのか、ということをも自分に問い続けることができる人
2. 人類の幸福と福祉、健康について、深い興味と問題意識を持っている人
3. 化学に関係した分野に強い関心を持っており、新しい問題点を指摘できる人
4. 生命の仕組みや生物の情報伝達能力に興味がある人
5. 人類の役に立つ新しい生物や物質の発見を志す人
6. 環境にやさしく持続性のある資源やエネルギーの創製に意欲を持っている人
7. 他者と協働し、倫理観を持って社会の変化に対応した知識、能力、技能を身につけたいと考えている人

(社会システム土木系学科)

社会システム土木系学科では、大学及び工学部の入学者受入れの方針に基づき、次のような人を求めています。

1. 数学・理科・英語などの基礎学力を有している人
2. 広く物事に関心を持ち、幅広く学問を学ぶ積極的な心構えがある人
3. 人類の安全と平和、ならびに健康と福祉について考え得る技術者倫理を持つことができる人
4. 人類と自然との調和を図り、持続的な社会を創造する力を身につける意志がある人
5. 計画・建設・管理技術に関する幅広い知識と技能を身につける意欲がある人
6. 他者と協働し、社会の変化に対応した知識、能力、技能を身につけたいと考えている人

学部等名 農学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://muses.muses.tottori-u.ac.jp/about/>)

現在、地球上では、急激な人口増と過剰な人為作用によって、食糧問題とともに、様々な環境問題が起きています。これらの問題を解決するために、農学に対する社会からの期待は極めて大きく、農学の果たすべき役割は21世紀においてますます増大しています。自然と人類との共生という観点からも、農学は極めて重要な責務を担っており、その可能性は大きく無限です。

農学部創設以来、砂丘地農業の開発や二十世紀梨の生産などをはじめとする地域の農林畜産業の振興に大きく寄与してきましたが、現在では、植物の遺伝子解析や生物の機能開発などに関する生命科学、砂漠化防止や緑化など特に乾燥地の環境問題、森林や湖沼などの生態系の保全と修復に取り組んでいます。また、地域だけでなく、世界各国との国際農業協力など、常にグローバルなレベルで積極的に特色ある展開をしています。獣医学科で

も、基礎、応用、臨床分野にわたる広い領域を対象とし、SARS 対策、人獣共通感染症である鳥エンフルエンザの解明、環境汚染物質による海洋生物への影響、キチンキトサンによる動物医薬品の開発など、特徴ある研究に取り組んでいます。

教育面についても、幅広い知識とともに実践する力をもち、社会の中核となりうる教養豊かな積極的な人材の育成を目標としており、室内実験からフィールドまで、学生の多様な要望に応えるべく、例えば海外研修など特徴ある教育コースとカリキュラムを用意しています。鳥取大学農学部は、2004 年度の文部科学省の 3 つの競争的重点事業、「特色ある大学教育支援プログラム」、「21 世紀 COE プログラム」、「地域貢献特別支援事業」に参加し、すべて採択されました。これら 3 つの事業をすべて採択された大学は、全国 700 余の大学のうちわずか 8 校です。このことから、鳥取大学農学部のこれまでの教育と研究が高く評価されたことが分かります。今後さらに高いレベルを目指して、教職員学生一体となって協力を進め、魅力ある特色ある教育と研究を進め有能な国際性豊かな人材育成を進めていきたいと考えています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

農学部は、大学の卒業認定・学位授与方針に加え、学生が各学科における学修と経験を通じて、次の要件を満たしたときに「学士（農学）」または「学士（獣医学）」の学位を授与します。

（生命環境農学科）

生命環境農学科は、大学の卒業認定・学位授与方針で示した能力、農学の基礎と応用に関する共通的な能力に加え、以下のいずれかの専門的な能力を身につけることを学位授与の要件とします。

1. 乾燥地を中心とした開発途上国における環境問題の解決や持続可能な農業農村開発に関する深い知識と技能を有している。
2. 里地里山における環境と資源の適切な管理、それらを活用した地域経済振興に関する深い知識と技能を有している。
3. 持続性のある農業生産に資するための、生物資源の発掘と育種、高度利用に関する深い知識と技能を有している。
4. 食料・健康・環境等の諸問題を解決するために、化学の視点から生命の本質を理解し、生物資源や食品機能の利用に関する深い知識と技能を有している。

（共同獣医学科）

共同獣医学科は、大学の卒業認定・学位授与方針に加え、岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科に 6 年以上在学し、卒業に必要な単位を修得することが、学位授与の要件です。また、これにより獣医師国家試験の受験資格が与えられます。共同獣医学科の課程を修了することにより、以下に掲げる能力を身につけた人材の輩出を目指します。

1. 伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物の健康の維持に関する幅広い知識と技能を有する人材
2. 口蹄疫のような大規模家畜伝染病の突発的な発生などに際しても対応できる問題解決能力を有する人材
3. 未知の疾患や難治疾患に接した際などにも対応策を探し出すことができる科学的・論理的思考力を有する人材
4. 災害などに際して動物の健康維持のみならず公衆衛生業務にも迅速に携わることができる実践的行動力を有する人材
5. コミュニケーションスキルが高く、動物の所有者との信頼構築や衛生行政の円滑な遂行などに必要な社会性と獣医学関連海外事情を積極的に収集できる国際性に優れた人材
6. 食の安全・安心や家畜感染症及び人獣共通感染症などのリスクマネジメント能力を有

する人材 7. 国際獣疫事務局（OIE）のミニマム・コンピテンシーに記載されている多様化、高度化、国際化しつつある獣医学に対する社会的要請に対応し、公共獣医事（Veterinary Service）を担うことができる人材
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/about/policy/）
（概要） 農学部は、大学の教育課程編成・実施の方針に加え、動植物のいのちを育む力、守る力、探究する力を養う教育を実践します。そのために各学科の「専門科目」または「専門教育科目」を通じて、基礎的専門知識と課題探究能力を備え、実践力のある人材を育成出来る様な教育課程を編成し、実施します。 （生命環境農学科） 生命環境農学科は、大学の教育課程編成・実施・評価の方針に従うとともに、卒業認定・学位授与の方針（DP）で示した能力を修得するために、以下の体系的な教育課程を編成し、実施します。 ○教育課程の編成の方針 ・専門教育においては、専門科目を学科共通専門科目とコース専門科目に区分し、段階的に導入から応用、探究へとつながるカリキュラムを構成します。 ・学科共通専門科目では、基礎科目と発展科目を設け、農学を学修する上で必要となる専門知識の導入を図ります。さらに、農学を幅広くより深く理解するための探究科目を設定します。 ・コース専門科目では、基幹科目と展開科目を設け、各コースで求める能力を達成するために、応用と専門的技能の修得を図ります。 ○教育・学修方法に関する方針 ・農学における課題解決能力や社会的実践力を修得するために、理論中心の講義、対話型・参加型形式を含む実践中心の演習、実験を有機的に連携させ、DPで示した能力を修得できる教育を行います。 ○学修成果の評価の方針 ・学部の定める成績評価基準に基づき、試験、レポート等により農学における学修成果の到達度を厳格に評価します。 ・農学における学修成果の可視化に努め、教育課程を検証します。 （共同獣医学科） 共同獣医学科は、大学の教育課程編成・実施の方針に加え、動物の健康の増進、公衆衛生の向上、人間社会や環境における健全性の維持に貢献できる、あらゆる命の専門家の育成が教育上の理念です。そのため、日本だけでなく国際社会をリードする者に不可欠な教養教育を基盤に、動物に関わる総合的・実践的かつ高度な獣医学教育を展開します。 1. 一般教養科目 人として、さらに獣医師として必要な自然科学の基盤、社会的規範及び国際性など、多様な領域について学問的関心を持ち、幅広い総合的な判断力を培い、かつ豊かな人間性を涵養することを目的とする教育を実施します。また、獣医学専門教育を開始する準備として、少人数を対象とした個別指導教育の実施や獣医学の多様性と獣医師の社会的役割を概説します。 2. 専門教育科目 斉一教育科目群と専修教育科目群から構成されます。前者は、獣医学モデル・コア・カリキュラムに準拠した科目について、多様化する獣医師の職務を遂行する上で必要な知識・技能に関する教育を実施します。専修教育科目群は、実践的体験学習（インターンシップ）、卒業研究及びアドバンス科目（選択科目）等からなり、問題解決力、課題探究力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、英語活用能力及び実践的行動力を

養います。 3. 学修成果の評価方針 学修成果の評価については鳥取大学単位認定規則に則り実施します。また、各科目のシラバスに記載された成績評価方法と基準及び学部が定める成績評価基準などに基づき、授業目標への達成度により評価します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/about/policy/）
（概要） 農学部では、人類の持続的生存と福祉への貢献を目指す次のような人を求めています。 1. 文化、社会、自然に関する基本的な知識・技能を有する人 2. 大学で学ぶにあたり、基礎的な思考力、判断力、表現力を修得している人 3. 自己の能力を継続的に向上させようとする意欲がある人 4. 倫理観及び責任感をもち他者と協働して社会に貢献したいと考えている人 5. 食料、環境、いのちについて強い関心を持ち、自主的、自発的に学ぶ意欲を持つ人 6. 国内外で農学の発展に積極的に貢献したいと考えている人 （生命環境農学科） 生命環境農学科では、農学部の入学者受入の方針に基づき、傾聴力を有し、視野を広げ、創造力を養う意欲をもった、次のような人を求めています。 1. 食料、環境、生命に関心を持ち、高等学校等で履修する科目の基本的な知識を有する人 2. 基礎的な科学的思考力と判断力を持ち、その多面的な向上と深化を志す人 3. 自己の能力を継続的に向上させ、乾燥地の農業や環境問題、地域資源の保全や活用、生物資源の発掘や育種、生命現象の解明や応用について主体的に探究する意欲を持つ人 4. 健全な倫理観と使命感を持ち、自身の考えを表現する力、力を合わせて活動する力を備える人 生命環境農学科では、これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、意欲などと関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人を対象とした選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。 （共同獣医学科） 岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科では、動物、人間社会、環境の健全性の維持に貢献し、多様化、高度化、国際化しつつある獣医学に対する社会的要請に対応できる獣医師の養成を目指しています。そのため、以下に掲げる意欲を持つ人材を求めます。 1. 高度な獣医学教育に対応し得る高い総合的学力を備えている人 2. 国際性及び科学的・論理的思考の習得に必要な基礎的な語学力と理系の知識を備えている人 3. 自然や生命に強い興味を持ち、それを探究する意欲を持つ人 4. 獣医学に関わる高い倫理観と使命感、コミュニケーション能力を備える人 5. 獣医師としての目的意識を持ち、獣医学を通じて社会の発展に貢献する意欲を持つ人 6. 公衆衛生や環境衛生、動物の病気の診断・治療等の幅広い分野について強い意識を持って学習に励む人 7. 国際交流に積極的に関わり、獣医師として世界に貢献する意欲を持つ人 共同獣医学科では、これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性・協働性などと関連付けて明示し、大学入学共通テストを利用する一般選抜のほか、学校推薦型選抜などを活用して多面的かつ総合的な評価による入学者の選考を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/edu-release/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	9 人	—					9 人
地域学部	—	24 人	24 人	6 人	0 人	0 人	54 人
医学部	—	58 人	29 人	36 人	81 人	0 人	204 人
工学部	—	51 人	40 人	6 人	21 人	0 人	118 人
農学部	—	37 人	37 人	5 人	5 人	0 人	84 人
大学院	—	4 人	1 人	1 人	0 人	0 人	6 人
医学部附属病院	—	6 人	10 人	30 人	119 人	0 人	165 人
その他	—	29 人	38 人	1 人	10 人	0 人	78 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		236 人					236 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/edu-release/performance/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
地域学部	170 人	184 人	108.2%	680 人	755 人	111.0%	0 人	0 人
医学部	264 人	276 人	104.5%	1291 人	1353 人	104.8%	5 人	5 人
工学部	450 人	496 人	110.2%	1800 人	1983 人	110.2%	0 人	0 人
農学部	255 人	265 人	103.9%	1090 人	1157 人	106.1%	若干名人	1 人
合計	1139 人	1221 人	107.2%	4861 人	5248 人	108.0%	5 人	6 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
地域学部	170 人 (100%)	5 人 (2.9%)	150 人 (88.2%)	15 人 (8.8%)
医学部	268 人 (100%)	43 人 (16.0%)	214 人 (79.9%)	11 人 (4.1%)

工学部	433 人 (100%)	230 人 (53.1%)	196 人 (45.3%)	7 人 (1.6%)
農学部	249 人 (100%)	66 人 (26.5%)	157 人 (63.1%)	26 人 (10.4%)
合計	1120 人 (100%)	344 人 (30.7%)	717 人 (64.0%)	59 人 (5.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
各授業担当教員が、シラバス作成要領に沿って、前年度の2月までに授業計画(シラバス)を作成し、3月中に Web システムにて公表している。
また、シラバス記載内容は高等教育開発センターにおいて全体の一括チェックを行うとともに、各学科等において教員による相互チェックを行うことで、教育の質保証の向上につなげている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位認定規則、成績の評価基準を定めるとともに、授業科目の授業計画（シラバス）上で「成績の評価方法と基準」を公表し、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により単位を授与している。卒業認定に当たっては、在学すべき年限を在学し、所定の教育課程を修了した者には、学部長の認定に基づき、学長が卒業したことを認め、学士の学位を授与している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
地域学部	地域学科	124 単位	有・無	単位
医学部	医学科	195.5 単位	有・無	単位
	生命科学科	142 単位	有・無	単位
	保健学科 看護学専攻	133 単位	有・無	単位
	保健学科 検査技術科学専攻	133.5 単位	有・無	単位
	工学部	機械物理系学科	126 単位	有・無

	電気情報系学科	126 単位	有・無	単位
	化学バイオ系学科	126 単位	有・無	単位
	社会システム土木系学科	126 単位	有・無	単位
	農学部 生命環境農学科	124 単位	有・無	単位
	共同獣医学科	183 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/edu-release/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
地域学部	地域学科	535,800 円	282,000 円	円	
医学部	医学科	535,800 円	282,000 円	円	
	生命科学科	535,800 円	282,000 円	円	
	保健学科	535,800 円	282,000 円	円	
工学部	機械物理系学科	535,800 円	282,000 円	円	
	電気情報系学科	535,800 円	282,000 円	円	
	化学バイオ系 学科	535,800 円	282,000 円	円	
	社会システム 土木系学科	535,800 円	282,000 円	円	
農学部	生命環境農学科	535,800 円	282,000 円	円	
	共同獣医学科	535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要）学生支援センターを設置し、なんでも相談と障がい学生支援を行っている。具体的な取り組み内容は、合理的配慮の提供、個別面談、グループ活動、研修会の企画・開催などである。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 学生支援センターでは、なんでも相談、障がい学生支援に関わった学生から進路に関する相談・希望があった場合、学内のキャリアセンター、学外の手帳のワークや障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター、発達障害者支援センターなどと連携し、進路選択に関するサポートを行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 保健管理センターでは、学生が心身とも穏やかに健やかな学生生活が過ごせるよう、健康診断の実施と問診・結果に基づく事後措置、心身の健康相談・診察、カウンセリング、生活習慣やソーシャルスキル獲得のための教育活動、感染対策等の啓発活動等を行っている。医師（専任教員2名）、保健師・看護師、学校医（内科・精神科・婦人科）、カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）が、それぞれの専門的立場で、協力して、きめ細やかな対応を行っている。必要に応じ、教員や学部・学内関係部署と連携して対応している。 学生支援センターでは、なんでも相談窓口を設けており、心身の健康をはじめ学生生活上の相談に対応している。希望学生には継続してカウンセリングを行っており、必要に応じて学内の保健管理センター、学外医療機関等とも連携を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.tottori-u.ac.jp/about/operation/edu-release/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F131110109417
学校名 (〇〇大学 等)	鳥取大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人鳥取大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		483人（ ）人	488人（ ）人	518人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	270人	263人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	118人	130人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	74人	68人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	21人	27人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ ）人
合計（年間）				523人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	16人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	37人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	37人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。